

2019年度プロジェクト活動報告：根尾コ・クリエイション

■プロジェクト代表：金山智子

分担者：小林孝浩、吉田茂樹、鈴木宣也

履修生：平塚弥生、亀田茂、赤迫瑠奈

■研究概要

本プロジェクトは岐阜県本巣市根尾地区（旧根尾村）の生活文化を、新しい技術や視点、価値観をもって捉え直し、これからの持続可能な社会を考えていくことを目的として、2015年より始められた。プロジェクト最終年度となる本年は、水源調査、文化的資産の記録、人々の記憶をテーマに多様な活動に取り組んだ。

まず、昨年度同様、記憶を記録する活動として「根尾あんばようしよまいか」（根尾のいいものを大切にしよう）を継続した。今年度は、根尾村史をもとに、そこに書かれていないことを地元の人たちから聴き、考えていく機会を複数回もった。

また、根尾の各集落が自前で構築した水源とその水を分配する仕組みの調査も継続的に実施した。今年度は2箇所水源システムを調査し、自立共生の仕組みについてさらに分析を行なった。年度末には、宮崎県小林市の分配システムについて視察見学も実施した。

今年度、最も注力したのは根尾の盆踊りである。これについては、根尾盆踊り保存会の協力のもと、盆踊りと唄を学ぶ機会を二回ほどもち、東京の若者たちグループとも連携した。盆踊りを三次元で記録するアーカイブ構築にも挑戦し、これに関しては小川科学技術財団の助成を得て、来年度さらに研究として取り組む予定である。盆踊り同様、能郷の能狂言についての調査も継続した。その成果の一部は地域活性学会にて報告した。

また、神社に関するフィールドワークも行い、21の神社（全体の3分の2）について調査し、根尾地区の想像の氏子の共同体について報告した。その他、地元の食（料理）、地元の人たちの物語、地元の人たちの表現（木炭画）といったテーマに学生たちが取り組んだ。今年度の成果は、「根と茎と菌～根尾の共生ネットワーク」と題して冊子にまとめ、同コンセプトをもとにIAMAS2020にて展示を行った。

最後に、昨年の実験的な活動を元に、今年度も根尾小学校の総合学習にてワークショップを2回実施した（3回目はCOVID19により延期）。これらの実践成果は、本学紀要（イアマスの子ども向けワークショップーその実践と成果）や2019年連携報告書において報告をおこなった。

■主な活動内容

◆あんばようしよまいか（6月～10月）



◆盆踊り練習や実験／能狂言の調査（7月～11月）



◆水源フィールドワーク (5月～翌3月)



◆神社フィールドワーク (11月～翌3月)



◆食に関するフィールドワーク (9月～翌1月)



◆根尾小学校総合学習におけるワークショップ（7月、11月）



◆冊子「根と茎と菌—根尾の共生ネットワーク」(48頁)の制作

